

## 第1分科会 各教科等を合わせた指導 生活単元学習

### 一人一人が主体的に活動できる授業づくり

#### ～生活単元学習における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から～

指導・助言 県立総合教育センター 指導主事 山口さやか

実践提案 支援学級 寄居町立桜沢小学校 教諭 木村 彩

活動報告 支援学校 県立特別支援学校生活単元学習部会

## 1 生活単元学習を取り巻く状況

知的障害のある児童生徒の学習上の特性として、①学習によって得た知識が実際の生活の中で応用されにくい。②成功体験が少ないことなどにより、主体的に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。そのため、各教科等を合わせた指導の一つである生活単元学習を教育課程の中核とし、児童生徒の実態や障害の状況に応じた特別の教育課程を編成し指導することが求められている。

中央教育審議会より『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」が出され、新しい時代の学校教育の姿として「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」が提言された。学習指導要領において示された、資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには、新たに学校における基盤的なツールとなる ICT を最大限活用しながら、多様な教育的ニーズのある子供たちを誰一人取り残すことのない「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが求められている。

## 2 提案実践について

### （1）良かった点、特筆すべき点等

教師と子供が共通の課題意識をもち、見通しをもって取り組めるように単元の学習をデザインすることが肝要である。本時の授業はそれが実現できている。全ての子供たちの可能性を伸ばす個別最適な学びとして、指導の個別化（学習内容の確実な定着）と学習の個性化（学習内容の理解を深め、広げる）が図られている。協働的な学びには、自分と同じ考えや似た考え、異なる考えをよく聞くことで、よりよい学びを生み出そうと取り組んでいる様子がうかがえる。本単元の展開のように、学びの質を高めていくためには、コンパクトでインパクトのある導入、わかる（できる）授業・魅力ある授業を展開していくという視点が重要である。

### （2）改善点、アドバイス

子供たちが「何を学んでいるか」について考慮しておくことも大切なことであるが、「どのように学んでいるか」について捉えておくことが、自ら学ぶ力を育成していくにあたり重要になってくる。教室には、様々な個性のある子供がいる。それぞれの子供の「自らをみつめる力」（メタ認知）、それぞれの子供の自分なりの学び方「学習方略」、そして、自分にはできる力があるという揺ぎない信念「自己効力感」、これらを支援し育てていくことが、自らの学びを自己調整できる主体的で自立的な学習者を育てていくことにつながっていく。

### （3）実践者への激励メッセージ

生活単元学習は、知的障害特別支援学級の児童生徒にとって有効な教育活動であり、教師にとってはやりがいのある教育活動である。生活単元学習での教師の役割は、①自分でやりたくなる“期待感あふれる状況づくり”②自分のもてる力を“精一杯発揮できる状況づくり”③自分のもてる力で“やるとげることができる状況づくり”である。児童生徒が意欲的に活動できるからこそ、様々な力が高まる。生活単元学習において、児童生徒一人一人の実態把握はとても重要である。

生活単元学習の授業づくりのポイントは、次の学習への意欲や常に日常生活を意識して、「やってみたらできた」と実感できること、達成感があることである。是非、子供との対話を大切にいただき、特別支援教育の推進にお力添えいただければ幸いです。